

# 平成26年度 学校評価書

学校名 兵庫教育大学附属中学校

## 1 教育目標 人生をたくましく豊かに生き抜くために、考え、鍛え、行動する人間の育成

<p><b>本校の性格と任務</b></p> <p>(1) 学校教育法の定めるところにより、義務教育学校として、中等普通教育を行う。</p> <p>(2) 大学と連携し、中学校教育の実証的研究並びに教員養成に関わる実習・実地教育校として実習指導と指導法の研究を協同して行う。</p> <p>(3) 大学・公立学校の研究協力校並びに国の研究推進モデル校として教育研究機関と連携し、教育と文化の振興と発展に寄与する。</p>	<p><b>目指す生徒像</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 生命を大切にし、他人の人格を尊重し合う生徒</li><li>○ ものごとを真剣に考え、進んで行動する生徒</li><li>○ 心身を鍛え、強い意志と体力をもつ生徒</li><li>○ 豊かに感じる心もち、表現できる生徒</li><li>○ たがいに信頼し、共に助け合い磨き合う生徒</li><li>○ 社会的自立を目指し、自己の能力や創造性を伸ばす生徒</li><li>○ 社会に積極的に、奉仕する生徒</li></ul>	<p><b>&lt;表の見方について&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・本年度の重点目標は、本年度4月に掲げた教育活動における本校の重点目標の内容です。</li><li>・自己評価結果の左端は、重点項目・評価観点・評価項目（取組内容）を示しています。</li><li>・「23年度評価」「24年度評価」「25年度へ改善の方策」は、昨年度の学校評価書の内容です。</li><li>・「25年度の取組達成の状況」「25年度評価」「26年度へ改善の方策」は、昨年度の「改善の方策」を受けて本年度に本校が取り組んだ内容とその評価、そして、来年度へ向けた改善の方策を示しています。</li><li>・「23年度評価」「24年度評価」「25年度評価」は、点数表記しています。</li></ul>
--	--	---

## 2 本年度の重点目標

<p><b>(重点1) 研究学校としての魅力</b></p> <p>1 研究・研修の充実</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○組織として「ねらい」をもった研究体制を確立し、全教員による研究授業と教師が元気になる授業研究会により研究を推進させる。</li><li>○研究発表会を充実させ、集客を追い、研究内容を広く周知する。10月26日(土)研究発表会予定</li><li>○大学、神戸市及び地域の公立学校との連携を図り、共同研究や研究交流を一層推進する。</li><li>○校内研修を充実させ、理論に基づく研究推進ができる基幹づくりを行う。</li><li>○各教科、教科外活動に大学から指導者を招き、継続的に指導を受けることで内容の充実を図る。</li><li>○各自が研究テーマを持ち、指導能力の向上を目指して文料省や国研などに積極的に応募する。</li></ul> <p>2 授業の充実(キーワードは「自分の考えを持たせる」)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○「確かな学力」の定着に向けて、授業改善・授業内容の質的向上を図る。</li><li>○「家庭学習の手引き」を活用し、定期的な指導により授業規律の定着と家庭学習の充実を図る。</li><li>○「自分の考え」を持たせ、協働学習の場を構成して、効果的な言語活動のある学び合いを展開する。</li><li>○国語科との連携を図りながら教科のねらいを達成する言語活動を授業に取り入れ、国語力の育成を図る。</li><li>○ICT機材を積極的に活用し、時間を有効に使うことで思考を深める活動を推進する。</li></ul> <p>3 道徳・人権教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○道徳的実践力を高め、人権感覚を身につける授業を全教育課程に位置づけて実施する。</li><li>○35時間を確保し教科横断的に実施することで、学んだことの拡がり効果を高める。</li><li>○人間としてよりよく生きるための基本的な心構えや行動・態度を学ばせる。(命の尊さ・自尊感情・思いやりの心・逆境に負けない強い心の育成 など)</li><li>○人権スキルを身につけさせる活動を工夫し、互いを認め合い、いじめのない学級・学年づくりを進める。</li></ul>
<p><b>(重点2) 中学校としての魅力</b></p> <p>1 学級・学年経営の充実</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○学年経営の基本方針を明確にし、職員相互の「報・連・相」機能を高めることで各教員の力を結集し、学年経営を充実させる。</li><li>○学級を三つの間(時間・空間・仲間)が心地よく、居心地がよくて所属感が感じられる場にするここといじめの根絶、不登校〇を目指す。</li><li>○保護者と連携を密にする工夫(通信やHPなど)をし、共に育てるという気運を高めることで支援を得る。</li></ul> <p>2 心つながる生徒指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○問題行動の未然防止・早期発見・早期解決を目指すため、迅速な報告・連絡・相談(報・連・相)の日常化と教員の連携による協同指導体制を敷く。</li><li>○定期的に生徒指導部会を開催し、情報の交換と共有を行うことで、学年を越えて全教員が関わる。</li><li>○スクールカウンセラーを活用し、養護教諭と担任との連携を強めてこころの健康を図る。</li><li>○生徒理解を深め、心の結びつきを基調とした指導により生徒自身の自己指導能力を高める。</li><li>○生徒間相互の望ましい人間関係の構築を図る工夫として、エンカウンター、ピアサポートなどの手法を効果的に取り入れる。</li><li>○ネットパトロールの取組を継続し、情報モラルを高め、情報を正しく活用することができるようにする。</li><li>○小中及び地域、関係機関と密な連携を図り、協力関係を構築する。</li></ul> <p>3 進路指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○学年段階に応じた計画的、組織的かつ継続的な進路指導をキャリア教育、アントレプレナー教育の視点から企画・実践し、基礎的・汎用的能力を高めるとともに、社会的自立を促す指導に努める。</li><li>○進路指導資料の整理とその効果的な活用を図る。</li><li>○教師と生徒の信頼関係を深めるキャリアアカウンセリングを実施する。</li></ul> <p>4 特別支援教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○日常の授業における教師の「指示の出し方」「声のかけ方」「説明の仕方・話し方」「立ち位置や板書の仕方」など、授業力・授業スキルに関する点検を行い、資質向上に努める。</li><li>○短期指導計画、中長期指導計画を策定し、指導の充実を図るとともに、指導記録を引き継げるようにする。</li></ul> <p>5 特別活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○リーダーシップの育成と、感動と連帯感のある学校行事にするため、学校行事を精選し、PDCAサイクルにより行事のマンネリ化を防ぎ、内容の充実を図る。</li><li>○生徒が主体的に取り組み、学校文化を創り上げる生徒会活動にするため、日常的な専門部の活動を充実させるとともに、生徒会役員の資質向上を図る。「はじめに子どもありき」</li><li>○キャリア総合選択授業及びアントレプレナー教育を推進し、社会的自立に必要な能力を育成するとともに、地域を愛し地域に貢献しようとする生徒の育成を図る。</li></ul> <p>6 保健・安全指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○自転車通学や公共交通機関利用の通学者への交通安全指導を実施する。</li><li>○避難訓練等の防災教育の充実を図るとともに、避難所運営の知識を得て、機能の充実を図る。</li><li>○生活アンケート等を活用し、基本的な生活習慣の育成、食育の推進を図る。</li><li>○不審者、学校事故、熱中症、インフルエンザなどへの注意喚起と関係機関と連携した迅速な指導・対応を図る。また、心肺蘇生法やAEDの扱いに慣れるための研修を行う。</li></ul>
<p><b>(重点3) 附属学校としての魅力</b></p> <p>1 学部・院との連携強化(実地教育を主として)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○実地教育について指導方針を共通理解し、計画的な実習が行えるよう指導・評価を工夫する</li><li>○実地教育指導者として、自身の指導力、資質の向上を図る</li><li>○学部生や院生との共同研究を意識し、教科における専門知識・指導技術の向上を目指す。</li></ul> <p>2 教育環境・生活環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○安全で安心な学校施設・設備の整備・修繕を行う(おやじの会、PTA環境部他の協力を仰ぐ)</li><li>○教室掲示、廊下掲示、玄関掲示など、学習に適した校内環境の整備を行う。</li><li>○清掃活動を徹底し、美しい学校にすることで、心も磨く。</li></ul> <p>3 地域・保護者・附属学校園との連携</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○学校支援ボランティア本部事業の見直しとコーディネーターの養成を図り、開かれた学校で保護者の姿が見える学校を目指す。</li><li>○学習支援ボランティアの組織化により、生徒への支援を計画的・継続的に行う。</li><li>○三附属校園連携会議を各教科の共同研究の場として位置づけ、小中の連続した教育課程・指導計画づくり、系統的なカリキュラムづくりを視野に入れた活動にする。</li></ul> <p>4 学校自己評価、学校関係者評価の活用</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○大学の中期計画に学校自己評価・学校関係者評価を反映し、附属中学校としての在り方を追求する。</li><li>○教職員としての使命感と高い倫理観を持ちながら、豊かな人間性の涵養に努め、専門性と実践的指導力の向上を目指し、研究と修養に努める。</li><li>○説明責任と報告を随時行ない、PDCAサイクルによる学校評価(自己評価及び学校関係者評価)を行う。</li><li>○保護者アンケート、生徒アンケートを実施し、実態を把握して指導に結びつける。</li></ul> <p>5 大学教員との共同研究の実施</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○大学と連携し、中学校教育の実証的研究、指導法の研究を協同して行う。</li></ul>

3 自己評価結果

※ 評価は4点満点 4 達成している 3 おおむね達成している 2 あまり達成していない 1 達成していない

重点項目	評価観点	評価項目(取組内容)				評価	評価	評価	評価	27年度 改善の方策	26年度改善の方策		
		23年度	24年度	25年度	26年度								
研究・研修の充実	研究・研修体制の確立 研究・研修体制を確立し、研究授業や職員研究会の充実を図り、日々の実践等の分析や評価を行い「必然性、納得性、実践可能性」を満たす具体的な研修を進める。	2.8	3.0	3.0	2.9	26年度 取組達成の状況 ○ユニバーサルデザインにもとづいて、授業目標・予定・まとめを掲示する、教師の指示や質問を明確にするなど授業環境の改善に取り組んだ。また、各教科では視覚化を取り入れたワークシートやノート、板書、フラティブなどの工夫を行い、わかりやすい授業授業づくりを行った。 ○ICT研修を行い、ICT機器を活用した授業に多くの先生が取組み、効果的な利用が進んできている。 ○授業研究会、職員研究会、教科部会で研究をすすめているが、共通理解がまだ十分にできていないところがあり、共通理解と協力体制の充実が求められる。				27年度 改善の方策 ○ユニバーサルデザインについて、共通理解を深め、授業内容において全ての教科で共通した取組みを進める。 ○学校全体での研究と各教科における研究の体制を整えと共に大学との連携を強化し、研究が組織的に進められるようにする。 ○ICTをユニバーサルデザインの一つとして効果的な利用を図る。		26年度改善の方策 ○学校の研究テーマと教科の研究テーマの関係を深め、相互に連携して研究目標を達成できるようにする。 ○研究部会、教科部会の活性化を図り、研究体制の充実に努めると共に、校内研究授業、教科内の研究授業を推進する。 ○研究と研修の内容をリンクさせ教員の資質向上に努める。 ○大学との連携を強化し、全ての教科で共同研究や指導を受ける機会を設ける。 ○生徒の発言などから、研究実践の成果・課題を検証する。	
	研究発表 研究発表会での出会いを大切に各地の実践の情報を共有するなど、研究の広がり意識した手立てを工夫する。研究発表会を開催し、教育研究の成果を公開発表する。	3.0	3.3	2.9	3.1	26年度 取組達成の状況 ○本年度は1日開催とし、研究授業2コマ、授業研究会7部会、講演会を行った。また、土曜日開催としたことで多く参加者と意見を交わし有意義な授業研究会となった。 ○講演会では研究テーマに沿った内容で講演をいただき、ユニバーサルデザインについて多くを学ぶことができると共に研究について示唆を受けることができた。 ○研究発表会の運営では、ほとんどの教員が授業・授業研究会に当たり、受付など人手不足となりスムーズにできなかった。				27年度 改善の方策 ○研究発表会の内容、研究協議のテーマ、助言者など早めに決定し、年間を通して研究を進め、その一端を発表できるように取り組む。 ○研究発表会の運営に、大学での共同研究者、公立学校の教員、PTAなど多くの人々の協力を得るようにし、本校の教員が授業や研究協議に専念できるようにする。		26年度改善の方策 ○26年度の研究発表会は、今年度と同じように土曜開催とする。ただし、25年度の半日から1日開催に変更し、新たに分科会を設ける。 ○講演については、研究テーマに沿った講師を招聘し、参加者、本校教員の資質の向上を図る機会とする。	
授業の充実	「確かな学力」の定着 生徒の学習の達成状況を把握して生徒の学習における興味・関心を引き出すよう授業改善・授業内容を改善し、基礎的基本的な学力及び知識・技能の定着を図る。	3.1	3.1	2.9	3.0	26年度 取組達成の状況 ○ワークシートや課題の工夫、ノート指導、小テストなどをおして基礎的基本的な学力の定着を図った。 ○ユニバーサルデザインの研究によって、工夫次第でどの生徒にも理解しやすい授業づくりを進めることができた。				27年度 改善の方策 ○ワークシートを工夫したり、ノート指導を充実させたりするなど、個に応じた具体的な実践をおして、学力の定着を図る。 ○単元の目標、学習課題、学習計画を事前に生徒に明確に示し、授業後は単元で身につけた力を振り返ることをとおして確かな学力を身につけさせる。		26年度改善の方策 ○小テストや繰り返し学習を充実させ、学習に困っている生徒に適切な手立てを、学びのユニバーサルデザインを意識して行う。 ○グループ内で学び合いを深め、学力の定着に結びつく活動ができるように授業を工夫する。 ○全国学力学習状況調査を分析し、本校の実態を生かした指導を行う。	
	家庭学習の指導 家庭学習の手引きなどを活用して、授業に生かす家庭学習の視点から課題を出し、適切に評価することで学習意欲を高め、家庭学習の定着を図る。	2.8	2.7	2.6	2.6	26年度 取組達成の状況 ○授業の復習や予習の家庭でノートにまとめさせたり、授業内容に沿ったワークシートをさせたりしている。しかし、継続して取り組む生徒とそうでない生徒との間には、授業の理解度・到達度など様々な面での差が確実に生まれてきている。 ○基礎力充実のために毎日取り組む課題、週末に取り組む課題、長期休業期間に取り組む課題にわけて出すなどの工夫をした。				27年度 改善の方策 ○個に応じた課題、自分の力で意欲的に取り組める課題を工夫して出すなど、細やかな指導を行う。 ○個々の家庭学習の状況を把握し、保護者と連携して家庭での学習習慣が確実に定着するように働きかける。		26年度改善の方策 ○保護者と連携して家庭学習が定着するように、学習以外の事に使う時間のやりくりも含め、計画的に指導する。 ○学習者自身の力でできる課題を出し、確実に課題を仕上げられるように指導する。	
	「思考力・判断力」の育成 体験的、問題解決的な学習を取り入れ、協働学習場を構成して、コミュニケーションによる思考を育む授業を行い、主体的に学びを深める生徒の育成に努める。	3.1	3.2	3.1	3.0	26年度 取組達成の状況 ○グループで、多様な意見が出る課題を話し合わせる中で、自他の意見の相違に気づかせ、自己の考えを深めさせることができた。 ○課題について、個人で考え、ペアやグループで話し合い、クラスで交流し、もう一度個人で考えるという流れで授業を行うことができた。				27年度 改善の方策 ○様々な意見が出る課題を設定し、グループの話し合いを活性化させることで、思考力・判断力・表現力を育成する。 ○すべての教科で対応できるような話し合いのルールを定着させる。		26年度改善の方策 ○質の高い課題を設定し、まず個人で考え、次にグループで課題を解決する活動をする中で、必要な思考力・判断力・表現力を育成する。 ○すべての教科で思考を可視化する授業を行い、生徒のメタ認知能力を育成し、自ら考えを深める指導を行う。	
	言語能力の育成 各教科の単元・授業のねらいを達成するために効果的な言語活動を取り入れ、国語科と連携して生徒の言語能力の向上を図る。	3.2	3.3	2.9	3.0	26年度 取組達成の状況 ○国語の授業で「根拠」を「事実」と「理由づけ」と定義して授業を展開したことで、自分の考えを明確に整理し、相手に分かりやすく説明することができた。 ○教科として発表の仕方に力を注いだ。言語力の育成を目指してどのように発表することが相手に伝わりやすいかという視点で行った。今年行ってみて多くの課題が出てきたので、是非来年度に活用したい。				27年度 改善の方策 ○国語科を中心にすべての教科で連携をとり、論理モデルを使って根拠を述べさせたり、討論で効果があがる話型を使って発言させたりする機会を増やす。		26年度改善の方策 ○国語科で研究している論理モデルをすべての教科で有効に活用し、自分の意見や考えを整理し、わかりやすく相手に伝える指導を行う。 ○グループでの話し合いのルールを定着させ、すべての教科で使えるようにする。特に、聞く、訊く力の育成を図る。	
	ICTの活用 ICT機器を活用した効果的・効率的な授業により、思考の可視化を図り、生徒の学習意欲の向上、学力の定着、教科に対する興味関心の向上に努める。	3.2	3.4	2.9	3.3	26年度 取組達成の状況 ○多くの教科で、タブレットやPCを活用した授業実践がなされている。 ○教科ごとに工夫してICTの活用をしている。				27年度 改善の方策 ○どの場面でもどのように使用するかということを深めていきたい。 ○有効な活用法を検討しながら、活用場面を増やしていく。 ○教師のプレゼンテーションだけでなく、生徒がプレゼンテーションを活用した授業にも取り組みたい。		26年度改善の方策 ○すべての教員がICT活用ができるように研修を行う。 ○ICT機器を活用した授業実践を教員全体で共有する機会を設け、利用技術の向上を図る。 ○ネットワーク、プロジェクタ、タブレット端末の効果的な利用について検討し、授業改善を図る。 ○授業での情報機器利用の効果や弊害などを明らかにする。	
	ICTの活用 ICT機器を活用した効果的・効率的な授業により、思考の可視化を図り、生徒の学習意欲の向上、学力の定着、教科に対する興味関心の向上に努める。	3.2	3.4	2.9	3.3	26年度 取組達成の状況 ○多くの教科で、タブレットやPCを活用した授業実践がなされている。 ○教科ごとに工夫してICTの活用をしている。				27年度 改善の方策 ○どの場面でもどのように使用するかということを深めていきたい。 ○有効な活用法を検討しながら、活用場面を増やしていく。 ○教師のプレゼンテーションだけでなく、生徒がプレゼンテーションを活用した授業にも取り組みたい。		26年度改善の方策 ○すべての教員がICT活用ができるように研修を行う。 ○ICT機器を活用した授業実践を教員全体で共有する機会を設け、利用技術の向上を図る。 ○ネットワーク、プロジェクタ、タブレット端末の効果的な利用について検討し、授業改善を図る。 ○授業での情報機器利用の効果や弊害などを明らかにする。	
道徳・人権教育の充実	道徳教育 体験的・実践的活動を生かし、生徒の道徳性の涵養に努め、道徳的実践力を育成する。	2.6	2.9	2.8	2.7	26年度 取組達成の状況 ○基本的には、年間計画に沿って授業を進めることができた。 ○クラスや学年のようすを考慮しながら、適切な教材を選択して授業を行った。 ○普段から授業以外の場でも指導してきたが、道徳的実践力の向上にはいたらなかったと思う。				27年度 改善の方策 ○学年での指導路案の検討や発問の検討など、学年集団の共通理解を図り授業に臨めるようにしたい。 ○授業を中心に、日常生活での取組、実践力を重視した指導に努める。 ○授業研究を計画的に実施する。		26年度改善の方策 ○年間計画に基づいた指導に努める。 ○学級や学年の実態に即した教材を工夫する。 ○話し合いを取り入れた授業構成を考えていく。	
	人権教育 いじめは重大な人権侵害であることを理解させ、仲間づくりを進める中で、互いの存在に敬意を払える関係を構築し、人権感覚の備わった生徒を育成する。	2.8	3.1	3.0	2.8	26年度 取組達成の状況 ○いじめアンケートを行い、その結果を受けて教育相談等を実行してきた。 ○仲間作りを通して、人権感覚を身につけさせようとしている。				27年度 改善の方策 ○人権意識を高めるような機会を授業でも、日頃の生活の中でも持てるように工夫する。 ○外部機関との連携を図り、ネットいじめについての情報教育を行うっていく。		26年度改善の方策 ○いじめアンケートを継続して行い、未然防止に努める。 ○人権意識を高めるような指導を、学校生活全般を通じて行う。 ○「みんなちがって、みんないい」を実感できる体験的活動を行う。	
	学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価	○評価は概ね適切である。 ・研究校としての成果を、様々な場面・ツールで広く発信することを期待する。 ・より一層の学力の定着・向上を目指すため、「確かな学力」の定義付け、そしてその具体的な目標設定と検証を進めることを期待する。 ・アンケートからも、学習にますます意欲を感じている生徒の存在が明らかなので、全ての生徒の学力定着にむけての方策を期待する。 ・生徒の発達段階、社会の状況やニーズを踏まえながら、道徳教育・人権教育の更なる充実を期待する。											

研究学校としての魅力

中学校としての魅力

学級・学年経営の充実	学年経営 学年経営の基本方針を明確にし、相互理解に努め、連携して職務に取り組むとともに、他学年との情報共有に努めて指導の一貫性を保つ。	23年度	24年度	25年度	26年度	26年度 取組達成の状況	27年度 改善の方策	26年度改善の方策
	学級経営 集団活動・生活をする際のルールが学級内に定着することやふれあいのある本音の感情交流がある状態をつくることで、互いを認め合い、一人ひとりにとっての居場所となる学級づくりに取り組む。互いを認め合う風土をつくり、どの生徒にも居場所としての、三つの間【時間、空間、仲間】がある学級経営に努力する。	23年度	24年度	25年度	26年度	26年度 取組達成の状況	27年度 改善の方策	26年度改善の方策
	保護者との連携 学年便り、学級便り、学級懇談、PTA活動等を通じて、保護者との連携を深め、保護者が積極的に参画できるように努める。	23年度	24年度	25年度	26年度	26年度 取組達成の状況	27年度 改善の方策	26年度改善の方策
心つながる生徒指導の充実	生徒指導方針の共有と指導体制 全教職員の共通理解のもと問題行動の未然防止・早期発見・早期解決に努め、問題行動に迅速かつ一貫した指導に当たる。	23年度	24年度	25年度	26年度	26年度 取組達成の状況	27年度 改善の方策	26年度改善の方策
	生徒指導（内面的理解・共感） 一人一人の生徒の内面を共感的に理解し、人間的ふれ合いに基づいた指導を継続するとともに、スクールカウンセラー等を効果的に機能させながら、生徒間相互の望ましい人間関係の構築に努める。	23年度	24年度	25年度	26年度	26年度 取組達成の状況	27年度 改善の方策	26年度改善の方策
	生徒指導（規範意識・態度） 学校や社会でのルールやマナーについて、全教職員が自ら範を示すとともに共通理解のもとで生徒の規範意識の向上に努める。	23年度	24年度	25年度	26年度	26年度 取組達成の状況	27年度 改善の方策	26年度改善の方策
	情報教育 教育機器の利用について、正しい知識と技術を習得させるとともに、ルールやマナーなど情報社会に生きる上で身につけておくべき態度を育成する。	23年度	24年度	25年度	26年度	26年度 取組達成の状況	27年度 改善の方策	26年度改善の方策
	キャリア教育 発達に応じた課題を用意し、キャリア総合選択授業やアントレプレナー教育を軸として生徒のコミュニケーション力、人間関係形成力、リーダーシップ、課題対応能力等を鍛え、社会的自立に必要な力を育てる。	23年度	24年度	25年度	26年度	26年度 取組達成の状況	27年度 改善の方策	26年度改善の方策
特別支援教育の充実	特別支援教育の推進 特別支援教育についての理解が深まり、全教職員の共通理解のもと、合理的な支援を行い、ユニバーサルデザインの授業づくりに努める。	23年度	24年度	25年度	26年度	26年度 取組達成の状況	27年度 改善の方策	26年度改善の方策
	特別支援教育の支援体制 個々の課題に応じた個別指導計画を作成し、大学の先生方と連携を密にして、適切な指導に向けた実践研究を進めている。	23年度	24年度	25年度	26年度	26年度 取組達成の状況	27年度 改善の方策	26年度改善の方策

中学校としての魅力	特別活動の充実	特別活動・学校行事 生徒会を中心に生徒一人一人が主体的に取り組めるよう計画し、自主的・実践的な態度を育てるとともに、学級、学年、縦割りグループ、全校などの様々な集団を構成する中で、目標に向かって努力し達成する喜びを味わわせる。	23年度	24年度	25年度	26年度	26年度 取組達成の状況 ○体育祭・友誼祭等を通じて、クラスを中心とした様々な集団での主体的取組が行えた。 ○体育祭、友誼祭において、生徒が自主的に取り組んでいた。 ○共通理解のための生徒会担当会議を実施できていない気がする。また、担当から全職員へ報告・連絡・相談は特に行われていないと思う。	27年度 改善の方策 ○生徒自身が主体的に取り組める内容を吟味・検討して実践する。 ○生徒会役員を中心に学年での意識を高める機会を作る。 ○生徒会、厚生部の活動を充実させ、食育ともかね合わせた内容を探って行きたい。 ○学校行事だけでなく、日頃の学校生活の中での生徒会活動を充実させるための方策をとる。	26年度改善の方策 ○共通理解のため生徒会担当会議を実施し、担当から全職員へ報告・連絡・相談をできるだけ細やかに行う。 ○全校生徒に活動の内容が常に意識できるように連絡黒板を有効に活用したり、生徒会新聞の発行を増やしたりする。
	保健・安全指導の充実	防災教育 附属学校園における安全確保及び安全管理の手引きに基づいた訓練や学習を実施し、常に防災意識を高めておくとともに、非常時において「生き抜く」ための知識と技能を身につけさせる。	23年度	24年度	25年度	26年度	26年度 取組達成の状況 ○計画的に避難訓練を実施し、防災について考えることはできた。しかし、緊急時の対応についての取組は十分なものとはいえない。 ○防災訓練で、阪神淡路大震災で被災した本校の教員がその体験を生徒に話したことで、生徒が自らの生命を守る意識が高まった。	27年度 改善の方策 ○防災訓練では、教員自らが範を示し、その意義を生徒にしっかりと理解させる。 ○日頃から危機管理対応マニュアルを熟知させる。	26年度改善の方策 ○加東市の避難所としてのあり方を研修する。 ○有事（地震、洪水など）を想定したマニュアル策定と、早急な体制づくりを行う。 ○マニュアルに基づいた訓練を実施する。
		食育・給食指導 望ましい食習慣を身につけ、健康な食生活を送るための指導を、計画的に行う。	23年度	24年度	25年度	26年度	26年度 取組達成の状況 ○中学生の時期の栄養の重要性について、教科や生徒会活動、学級活動など、学校生活全般から啓蒙活動が出来た。 ○残食が多い献立があり、偏食についても指導を強化している。	27年度 改善の方策 ○ふるさと給食の意義や望ましいマナーなどについて、啓蒙活動を行い、給食についての理解を深める。 ○残食を数値で示すなど、減らす工夫をする必要がある。	26年度改善の方策 ○学校給食の意味を改めて考えると共に、残食を減らす給仕の仕方のアイデア等を、学校として意見を出し合い、検討していく。
		健康・安全教育 一人一人の健康・安全に配慮し、保護者や学校医とも連携を図りながら健康教育を推進するとともに、災害発生時にもリスクを最小限にとどめる指導を行う。	23年度	24年度	25年度	26年度	26年度 取組達成の状況 ○厚生部を中心に、生徒自らの力で健康・安全について考えさせることができた。また、手洗い・マスク・うがい・換気などの呼びかけ、熱中症、感染症の予防等も行った。 ○救急車を要請する必要があるほどのけがや体調不良のとき、教職員の対応が早かった。	27年度 改善の方策 ○日常的に健康安全指導を行うとともに、救急救命講習を充実させる。	26年度改善の方策 ○健康・安全に過ごせる環境を作るとともに、学校生活をとおして健康・安全指導を行う。 ○厚生部を中心に、生徒自らの力で健康・安全について考えさせる。
		学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価	○評価は概ね適切である。 ・生徒指導、情報教育、人権教育等、様々な観点から、ネットいじめやネットトラブルについての学習が進められることを期待する。 ・登下校時の安全指導やマナー指導の推進が必要であると考える。 ・学校内外での防犯・防災体制を構築し、その継続的な指導の推進が必要と考える。						
附属学校としての魅力	の学連部携・強院化と	実地教育（教育実習） ともに研究を進める意識を持ち、自身の資質向上を図ることで質の高い実地教育が行えるよう努力し、実習生に基本的な知識と技能の習得と教職への理解を図り、教師に必要な素養を高める指導を行う。	23年度	24年度	25年度	26年度	26年度 取組達成の状況 ○先生と実習生が真剣に話し合いを重ねる姿が多く見られた。 ○大学の先生とも協力して、細やかに実習生の指導を行えた。	27年度 改善の方策 ○大学と連携して取り組むと共に、校内でも全体の共通理解を徹底させる。	26年度改善の方策 ○大学の先生方と協力を得ながら、実習生の指導を進める。
	整生教備活環境の・環境の・	施設・設備 施設・設備の定期点検と拡充を行い、校内の安全を確保すると共に、教育効果を高めていけるよう教育環境の整備に努める。	23年度	24年度	25年度	26年度	26年度 取組達成の状況 ○すべてのトイレが新しく整備され、環境がよくなった。 ○校舎ができて、30年以上経過したため、老朽化が進んでいるところがある。	27年度 改善の方策 ○日頃から定期点検を実施し、施設・設備が充実した環境づくりに取り組む。	26年度改善の方策 ○施設・設備が充実するように、積極的に情報を発信し、予算化できるように努める。 ○定期的に安全点検を行い、施設・設備を管理する。 ○おやじの会の活動を保護者に知らせ、協力体制を作る。
	携校者地園・域との属・保護学護	大学・附属学校園間の連携 附属学校運営委員会での方向性をもとに、大学及び附属学校園間の連携を深め、子どもの発達段階に応じた効果的な教育活動をめざす。	23年度	24年度	25年度	26年度	26年度 取組達成の状況 ○大学と共同研究している教科が増え、より有効な教育活動を推進することができた。 ○インクルーシブ教育を柱に幼小中の三附属の連携が深まった。	27年度 改善の方策 ○幼・小・中の連携を深め、特色のある取組ができるように努める。 ○大学・三附属の連携にとどまらず、地域に対しても積極的に情報を発信していく。	26年度改善の方策 ○大学や幼・小・中の連携を深め、各教科で具体的な教育実践を行う。 ○インクルーシブ教育を柱に、交流を強化する。
	実大施学教員との共同研究の	指導力の向上 専門的な知識や技能を磨くための研修等に積極的に参加し、大学の先生方との連携を密にしながら、課題解決のための情報収集にも努め、教師として指導力の向上を図る。	23年度	24年度	25年度	26年度	26年度 取組達成の状況 ○近畿国立大学附属学校連盟の研究会だけでなく、全国の研究会で発表や参加をすることができた。 ○多くの教員が自ら研修を深め、指導力を向上させている。	27年度 改善の方策 ○研究会に参加した先生が、その内容を校内で交流する場を多く作る。 ○文科省や国研に積極的に応募して研究を深める。	26年度改善の方策 ○全国の研究会に積極的に参加し、その情報を教員に還元する。 ○大学との連携を密にし、共同研究を進める中で指導力を向上させる。
	学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価	○評価は概ね適切である。 ・附属学校園間の連携を、さらに充実させることを期待する。 ・生徒指導、安全・防災・防犯教育等、様々な場面で行政や地域との連携を深めることを期待する。							
全体としての評価について	○自己評価の方法は概ね適切である。 ・前年度からの課題を明確にし、生徒・保護者へのアンケート結果を分析し細かく評価することで、評価の信頼性を高めている。 ・アンケート結果に謙虚に向き合う姿勢が感じられる。今後もその姿勢を維持し、学校教育目標達成に向けて努力を続けて欲しい。 ・アンケート項目へは表れない声、小さな声（不満ではないが満足もしていない）を拾い上げ生かしていく姿勢を大切にしたい。								